

Vol. 177号

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

2024(令和6)年
7月1日発行

社会福祉 東京コロニー
法人
〒165-0023
東京都中野区江原町 2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-3952-6664
<https://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 52 木村 遊夢さん 『いか』(詳しくは27頁をご覧ください。)

時評

法人の主な動きから

2024年度事業計画

とびっくす

2023年度事業報告

法人本部・コロニー中野・トーコロ生活支援センター・アートビリティ(〒165-0023 中野区江原町2-6-7)・中野区仲町就労支援事業所(〒164-0011 中野区中央3-19-1)・コロニーもみやま支援センター(〒164-0001 中野区中野5-3-32)・トーコロ情報処理センター 事業部・職能開発室(〒164-0001 中野区中野5-3-32)・デジタルメディアセンター(〒170-0005 豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル6F)・東京都葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石3-10-18)・コロニー東村山(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・東村山市障害者就労支援室(〒189-0014 東村山市本町1-1-1)・東京都大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロあおば就労サポートセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)・東久留米第三氷川台寮(〒203-0002 東久留米市神宝町2-14-26)・えはらハイツⅠ、Ⅱ・中野江原短期入所・中野区日中一時支援(〒165-0023 中野区江原町3-23-2)・とよたまハイム(〒176-0014 練馬区豊玉南2-3-9)・こあらハイツ(〒202-0013 西東京市中町3-10-9)・あおばハウスⅠ、Ⅱ(〒189-0002 東村山市青葉町3-2-2)

時評

伝えたいこと

理事長 中村 敏彦

今回は、思いつくまま自由に書いてみました。予めご了承ください。

基本的な役割

3年ごとに改定される障害者総合支援法は、今年度4月から報酬改定を含んで見直されました。加算・減算が強化され、新たなサービスの創設もあり、当法人でも経営や当事者にどのように影響するのかなど、事前に準備を進めました。

厚生労働省は、障害福祉サービス事業経営実態調査を毎年実施しており、その目的を「障害福祉事業所等の経営状況等を明らかにし、障害福祉サービス等報酬改定の影響把握及び次期報酬改定のための基礎資料を得る」としています。つまり、報酬

改定の根拠には経営実態調査が大きく影響すると理解できます。

世代交代が進む中、現在の障害者総合支援法の背景を知る人も少なくなっていると思いますので、改めて振り返ってみることにします。

障害者に関する施策は、2003年施行のノーマライゼーション理念に基づいて（とされる）導入された「支援費制度」によって、従来の「措置制度」から大きく転換しました。支援費制度は、次の問題点が指摘されてきました。

- ・ 障害種別の縦割りでサービスが提供されており、使いづらく、精神障害者は対象外であること。
- ・ 地方自治体によってサービスの提供体制が不十分であり、地域格差があること。
- ・ 働きたいと考えている障害者に対して、就労の場を確保する支援が十分でないこと。
- ・ 支給決定のプロセスが不透明で、全国共通の判断基準に基づいた利用手続きの規定がないこと。
- ・ こうした問題を解決し、障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現（とされる）を目指して、2006年に施行されたのが「障害者自立支援法」で、次の特徴がありました。

・ 障害種別にかかわらず必要とするサービスを利用できるよう、利用するための仕組みを一元化し、事業体系を再編する。

・ サービスの提供主体を最も身近な市町村が責任をもって、一元的にサービスを提供する。

・ ニーズや必要に応じて利用できるように障害程度区分を設け、公平公正の観点から市町村審査会による支給決定を行うなど、決定プロセスの明確化・透明化を図る。

・ 働きたいと考えている障害者に対して、就労の場を確保する支援を強化する。

・ 国の費用負担2分の1を義務化し、利用者もサービス量及び所得に応じて原則1割を負担するなど、みんなが支えあう仕組みとする。

しかし、障害者自立支援法は当事者や家族、関係者には不評でした。2008年には、障害者や家族から「障害者自立支援法は障害者自身に原則1割負担させることが、憲法で保障する個人の尊厳や法の下での平等、生存権に反する」として、廃止を求めて一斉提訴されたのです。「サービス」という用語が頻繁に使用され始めたのもこの頃からだと思います。以前の東京コロニーでは、少なくとも

も措置の時代は、障害のある人と一緒に働くことや、互いに協力することは当たり前であり、サービスとは捉えていませんでした。

障害者自立支援法は、2009年連立政権合意によって廃止を決定し、総合的に支援する制度をつくることとされました。そして、裁判を起こした違憲訴訟団（原告ら71名）と国（厚生労働省）との間で、「基本合意文書」を交わし、その後も「基本合意の完全実現を目指す会」と厚生労働省との間で、定期的に協議を重ねていきました。新しい制度の検討には、内閣府に「障がい者制度改革推進会議総合福祉部会」が設置され、障害者権利条約を批准するにふさわしい「骨格提言」が示されました。

しかし、2013年に施行された「障害者総合支援法」は、残念ながら「障害者自立支援法」の改訂版に留まりました。その後、3年毎の見直しを繰り返して現在に至っていますが、見直しの結果、障害のある人の暮らしは向上したのでしょうか。また、事業区分や加算・減算の強化、スコア形式の導入など細かく規定したことで、職員の事務量は膨大し、当事者にとって使いづらくなっ

わたしたちは、度重なる報酬改定に一喜一憂するだけでなく、当事者の暮らしぶりの変化や法律の本質にも注視しながら行動することを忘れないようにしなければなりません。

人間力を磨こう

今年度は、当法人の中期事業計画も3年目を迎えます。まだまだ皆さんの課題が残っていますが、とりわけ人財確保と人財育成が重要課題と受け止めています。人財不足は福祉業界共通の課題といわれていますが、一人ひとりがやりがいを持ち、風通しの良い職場環境の中、本音で議論できる関係性をもった、魅力ある組織でありたい、目指したいと、心よりそう願っています。

先日、コンサルティング会社から「人財創造プログラム」の提案を受けました。その会社では、人材ではなく人財を使用することでしたので、私も触発されこの誌面では人財を使うこととします。そして、提案の中に「人間力」というワードがあり、とても興味をもちました。

私はこれまで、人間力について深く考えたことがなかったので説明も難しいのですが、内閣府が2003年にまとめた「人間力戦略研究会報

告書」では「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義しており、この人間力は「知的能力的要素」「社会・対人関係的要素」「自己制御的要素」の3つにより構成されるとしています。

①「知的能力的要素」は、基礎学力や専門的な知識にはじまり、情報を収集し論理的、分析的に表現する論理的思考力、新しい価値や新たな行動を生み出す創造力

②「社会・対人関係的要素」は、異なる文化・世代の人たちとともに理解し合うコミュニケーション力、チームを目標達成に導くリーダーシップ、社会の利益のために行動できる公共心、規律のもとである規範意識、他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力、相互啓発力

③「自己制御的要素」は、学習・就業・社会参加・目標に対する意欲、信念をもって粘り強く取組む忍耐力、自分らしい生き方や成功を追求する自己受容・自己実現力としています。

あくまでも私見ではありますが、東京コロナで求める人間力とは、「経験する様々なことから真摯に学

び、学んだことを活用する力」「人との関わりにおいて、人に、社会に、役立とうとする力」「自分を律し、他人を敬う力」の3つの力を兼ね備えた総合力と解釈しました。

まとめに

障害者の「完全参加と平等」という目標の実現を目指して、各国が行動した1981年国際障害者年では、ノーマライゼーションの理念に基づき障害者福祉を築き上げようと、国際的な動きがありました。また、2006年に国連で採択した、障害者の人権や基本的自由、固有の尊厳の尊重などを規定した国連障害者権利条約は、2014年に日本も批准し、2022年には審査を受けています。審査の総括所見では、施設などの隔離施策は障害者の権利侵害にならないかと懸念し、他の者との平等を基礎とした社会に移行することを勧告しています。さらには、海外で起こっている紛争も世界中の人々の不安であり、平和を脅かしている状況です。このように、私たちを取り巻く環境は複雑化し、人と人とのつながりがますます重要になっていくと思います。コミュニケーション力やリーダーシップを持つ人財が、

私達の成長や変革に不可欠な存在となっており人間力を磨く重要性が増していると実感せざるを得ないのです。

当法人は当事者たちが創設し70年を超える歴史のある法人です。制度が未熟だった時代には法を超えてでも、できることは何でも挑戦してきました。環境変化が激しい時代、従来の法人運営では真に必要なとされるニーズに対応しきれなくなっており、改めて、リーダーシップ、柔軟性、創造性、コミュニケーション能力、問題解決能力といった人間力を磨くことが求められているように思います。また、グローバル化が進む中では、多様な文化や価値観を持つ人々との関係構築も求められます。人間力を持った人財は、相手の立場や文化に配慮し、柔軟かつ適切な対応を可能とします。

人間力を高めるのは、容易ではなく、終わりが無いのかもしれない。しかし、日々の積み重ねによって磨ける可能性があると思いますので、まずは、自分がどのような人でありたいか、考えることから始めてみたいと思います。私自身も少し枯れつつありますが、もうひと絞りしてみようと思います。

法人の主な動きから

東京都葛飾福祉工場 立石工場竣工 笑顔増量中

東京都葛飾福祉工場立石工場は、1985（昭和60）年に当事業所の製袋工場として開所し、その後2012（平成24）年4月に東京都から民間移譲により法人立の多機能型事業所に移行し、今日まで38年が経ちました。

老朽化している立石工場の建て替えは民間移譲の条件であり、2016（平成28）年金町工場建て替えに続き、立石工場も建て替えの検討を進めてきました。2021（令和3）年度より東京都をはじめ葛飾区とも調整を図りながら、2021（令和3）年10月に第1回目住民説明会を開催するなど、建設に向けスタートしました。



予定と完成が大幅に遅れることとなりましたが、監理・建設業者の頑張りとあり2024（令和6）年2月に竣工し、4月から新しい建物へ移転、事業開始することができました。

今回、同じ立石エリアではありませんが、建物移転による通所環境の変化が利用者みなさまに負担を強いる面もあったかと思いますが、なによりピカピカの建物で日々の業務や作業を行える喜びは、何物にも代えがたいものと利用者・従業員皆が

期待していました。移転して2カ月、その期待が現実のものとなったようです。利用者、従業員の声をご紹介します。新装なった当事業所へ是非お出下さい。

*

- ・引越後後も利用者は困ることなく通所ができています。サービス（移動支援）につながった利用者もいます。
- ・作業スペースが今までよりも広くなり、作業に取り組みやすい環境になりました。
- ・扉を設置せず、死角をなくしたことで支援に取り組みやすくなりました。
- ・トイレの数も増え、使いやすくなりました。
- ・食堂が同じフロアではなくなりましたが、トラブルのないように対応していきたい。2カ月経過、何の問題もありません。
- ・ピカピカの職場になり、利用者・職員の笑顔も増えました。
- ・見学、実習の希望がとて増えました。



- ・工場への車両アクセスが良くなった。（旧工場は大型車が入れない）
- ・スパーなどが近くにあるので買い物の利便性が上がった。
- ・共有部分が格段に使いやすくなった。（食堂、トイレ）
- ・旧工場では老朽化により全ての設備（空調、上下水、雨漏れなど）で我慢をしながら過ごしていたが、それらから解放されました。
- ・階層（4階）が多くなった事でそれぞれの階の郵便物、荷物、連絡の伝達方法についての一定のルール化は準備していましたが、加えて気配り（他階の人が1階に下りた時、自階に持っている物がなにか確認するなど）が従業員、利用者とも自然に行えています。

東京都葛飾福祉工場
支援部部长 澤地かおる

トークイベント 『障がい者アートの見方』 20年以上続く「キラキラっ とアートコンクール」の 実践』に登壇しました

2024年2月27日(火)、MIX Marunouchiにて行われた三菱一号館美術館が主催するトークイベント『障がい者アートの見方—20年以上続く「キラキラっ」とアートコンクール』の実践』に、登壇者の一人として参加させていただきました。

会場はとてもお洒落で来場者との距離も近く、ライブ感の溢れるトークセッションとなり、イベント事務局皆様がりラックスした雰囲気を出して下さったことで、刺激的ながらも楽しみつつ参加させていただきました。

「キラキラっ」とアートコンクール」は、三菱地所株式会社が主催する20年以上続く障がいのある子どもたちの絵画コンクールで、東京コロニーのアートビリティが第1回目から事務局として協力させていただいております。私も同コンクールの審査員をご依頼いただいているご縁で、今回アートビリティを代表して声を掛けていただきました。

登壇者は私のほかに「キラキラっ」とアートコンクール」の審査員としてもご縁のあるOJUN氏(画家)とモデレーターの野口玲一氏(三菱一号館美術館 上席学芸員)です。お二人との対談は、一つ一つのテーマにおいて答えをだすというスタイルではなく、美術と福祉の専門にお



三菱一号館美術館トークイベント 都市と美術館

障がい者アートの見方 —20年以上続く「キラキラっ とアートコンクール」の実践

登壇者：OJUN氏(画家)
高橋 宏和氏(社会福祉法人東京コロニー
アートビリティ 代表)

モデレーター：野口玲一(三菱一号館美術館学芸員)

日時：2024年2月27日(火) 19:00~20:30
会場：MIX丸の内(丸の内二丁目ビル 2階)
参加費：1000円
要事前予約

防災用品のご案内

2024年1月1日に発生した能登半島地震で被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

東京都葛飾福祉工場ではAmazonにショップを開設し、防災用品を展開しております。関東大震災から100年が過ぎ、既に同規模の震災が発生するサイクルに入っています。

災害を防ぐことはできませんが、被害を減らすことはできます。

保存水・トイレ・食料・ラジオ・懐中電灯等はお持ちですか？

家庭や職場にあると、「いざ」という時に安心です。ぜひ備えましょう！

いて、それぞれの考えを共有することでお互いの全く違う視点を補うような場であったと感じます。瞬間にイベントの時間が過ぎてしまったことで来場者の皆様との質疑応答等の時間が持てなかったのは少し残念でしたが、私自身、今回のイベントを通じて、障がい者アートに関わる

意義を整理することに繋がりました。普段、福祉に関わる支援者として利用者である当事者に寄り添うように、アートコンクールに関わる審査員・事務局の立場として応募者である作家に寄り添うことを目指し、引き続き邁進して参りたいと思います。

アートビリティ代表 高橋宏和



保存食 5年セレクトセットII

こちらのQRコードから
Amazonのページを
ご覧いただけます



電話：03-3608-3541
FAX：03-3608-5200

2024（令和6）年度 事業計画

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症は5類感染症に位置付けられましたが、現在もお安心できる状況ではありません。一方、ロシアによるウクライナ侵攻は続いており、また新たなイスラエルとハマスの紛争なども加わり、経済情勢はさらに影響を受けると考えられます。本年度も、様々な物価高騰によつて各事業所の運営は厳しい状況を余儀なくされることが想定されます。引き続き、社会環境や経済状況を予測した予算を立てることとします。本年度は、中期事業計画（2022年度～2026年度）の3年目となりますが、事業本部制の廃止に伴う担当理事制による拠点単位の管理体制、世代交代の段階的实施による事業運営、一部の総務経理事務の本部統合などを含めて継続して取り組み、併せて、この間の自然災害や元且に発生した能登半島を中心とした地震災害なども教訓に、予測できない自然災害への準備なども着実に進めていきます。わが国も批准した国連障害者権利条約は、2022年8月に国連権利委員会による初回審査が行われ、会期中に総括所見も公表されました。これまでの障害者施策を父権主義的アプローチと指摘し、暮らしの場や教育の場、就労の場の分離された環境に懸念が示され、インクルーシブな社会への移行を示唆しています。今後は、「人権モデル」に調和するように社会環境の変化が求められ、障害者施策の現状もまた問われていくものと思えます。本年度も、社会環境の変化に速やか

に反応するとともに、障害のある人の暮らしの向上を目指して関係団体と連携し、法人全体で、拠点の所在するそれぞれの地域で、様々な諸課題に取り組んでいくこととします。

2. 事業方針と予算の特徴

経済協力開発機構（OECD）の短期的な世界経済の見通しは、下振れリスクが高い傾向にあると指摘し、特に不確実の要因に紛争に起因するリスクを挙げ、今後のエネルギー市場や主要な貿易ルートの混乱などの影響を危惧しています。本年度の事業方針は中期事業計画を推進することを前提としますが、各事業所の就労支援事業では、材料や製品等の仕入れ、水道光熱費などの必要経費の高騰、あるいは高止まりの傾向は当面続くものと予測し、経済情勢に注視して厳しく見込む必要があります。また、業界の不正や虐待・ハラスメント報道などには特に注目し、当法人で決して起こらないよう、法人全体、あるいは拠点間で情報を共有し、協力・連携して取り組むこととします。

(1) 経営の基本方針
・ 経営理念や倫理、社会的役割に伴うコンプライアンスやガバナンスを重んじた法人運営に継続して取り組みます。
・ 福祉サービスの質の向上のために、第三者サービス評価機関の審査を受けるとともに、苦情解決第三者委員制度の運用や広報誌やホームページ等による情報開示に取り組みます。

・ 法改正や業務改善などに伴う法人の規程等を必要に応じて見直します。

(2) 法律・施策等改正への対応
・ 障害者総合支援法に伴う障害福祉サービス報酬改定や、東京都サービス推進費のメニュー選択式加算の変更、障害者雇用調整金の改定などの法律・施策等の改定に注視し、支援の質の向上に努力するとともに、公費報酬のない拠点との整合性にも配慮して、その都度協議していきます。

(3) 財務・資金管理
・ 会計顧問の指導を受けながら、会計基準に則り精度の高い管理に努め、さらに外部会計監査人の指導を会計管理に反映させます。

・ 財務や資金管理について、外部からの借入金とは前年同様とします。法人本部は全体を把握し拠点間の窓口となつて調整に努め、可能な範囲で内部の資金活用を検討します。

・ 前年度は、逼迫した資金繰りを解消するため、理事会の承認を受けて、年度途中で特殊当座借越の中から新たに1億円を借り入れました。経営改善に全力で取り組み、計画的な返済を目指します。

(4) 事業の継続
・ 障害福祉サービス事業所等へのBCP（事業継続計画）策定の義務化は、前年度で経過措置が終了しました。当法人では、策定済みの計画を必要に応じて適宜見直していきます。

・ 引き続き、感染症の予防対策には徹底

して取り組むこととします。
 ・常に経営改善に視点を置き、持続可能な事業への体質改善を図ります。

(5)人材確保・育成

・継続的に人材確保に努め、経営や福祉の専門性を向上することを目的とした教育、研修を計画的に実施して人材育成に取り組みます。

・人事考課制度やハラスメント対応の引き等を活用して風通しの良い職場環境づくりに努め、一人ひとりの活躍の場を充実させます。次世代を育成し、世代交代も視野に順次進めていきます。

(6)他の団体との協力連携

・障害者福祉の向上のために、各省庁ならびに、東京都、各区市自治体、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコロ、特定非営利活動法人日本障害者協議会、全国社会就労センター、日本セルフセンター、東京都セルフセンターなどにおいて積極的に役割を果たします。また、従業員等が、対外的な立場において十分に役割発揮ができるように、可能な限り配慮し支援します。

・前年度に法政大学ならびに中野区のSDGsパートナーに参加しました。様々な取り組みの要請には、可能な限り連携していく予定です。

(7)地域活動

・障害者権利条約が示す「人権モデル」を基調とした支援体制は、地域の様々な社会資源との連携が不可欠となります。拠点ごとの地域活動においては、

各自自治体との連携を深め情報交換を密にしながら、地域福祉の向上ならびにニーズに応じた障害者福祉の充実に努めます。また、地域の福祉関連ネットワークには積極的に参画し、重要な社会資源になり得ることを目指します。

3. 各事業所の計画概要

前年度は、事業本部制の廃止を決定して必要な準備を行いました。本年度は、担当理事制として拠点単位の管理運営としますが、これまで以上に協力・連携を活発に行い、既存事業の安定経営ならびに福祉の専門性の向上を目指し、拠点が所在する地域のニーズに応じていきます。併せて、法人内にある現在の公益に関する事業は、将来のあるべき役割を想定しながら法人全体で支えられるよう検討を重ねます。

(1)法人本部

法人全体、法人内の各事業の充実を目指し、法人の抱える諸課題への対応、組織の強化策や運営改善、ガバナンス強化等において事務局としての役割を果たします。併せて、中期事業計画に基づき、法人本部として各拠点と協力しながら主体的に関わっていきます。事務局の運営においては、一部の総務経理を事務統合し、コスト意識に基づいた業務の省力化や事務処理の効率化を推進します。法人内の会議、委員会、研修等は、新型コロナウイルスの感染防止を継続しつつ、対面や集合、オンライン開催など臨機応変に対応し

ていきます。

(2)地域生活支援本部

地域生活を支援する事業として、グループホーム、短期入所、居宅介護事業等、特定相談支援事業を運営します。新型コロナウイルスの影響は徐々に少なくなっており、短期入所や移動支援の利用も少しずつ増えていくことが見込まれます。事業本部制廃止に伴い、福祉事業本部を地域生活支援本部と名称を変更して、グループホーム等の現地管理と運営管理などを整理し、管理運営をコロニー中野の所長が兼務する体制とします。

(3)トリーコロ情報処理センター

事業本部制廃止に伴い、事業部とデジタルメディアセンターを統合してトリーコロ情報処理センターとして事業運営にあたります。法人内のネットワークやホームページの管理など、各事業所として連携して横断的に役割を果たします。統合のスケールメリットとして、生産効率やコスト競争力を高め、また、事業効率・収益性を向上させるなど、単体よりも多くの成果が出ることを期待し、さまざまな問題や課題と向き合っていきます。IT関連企業は、コロナ禍による財政難の状況から保守的な傾向にあり、受託業務においては以前にも増して先が見通しづらく、売上高が落ち込むことが懸念されます。継続性のある年間一括受託業務を積極的に受注し、顧客からの要件・要望事項に柔軟に対応できるよう、そ

の時々に応じた体制を組みながら横断的に業務を遂行します。

(4)職能開発室

前年度に続き、世代交代による引き継ぎを目標に進めます。制度改正やデジタル活用等により変わっていく障害のある人の働き方を、今後も冷静に評価しながら、事業そのものを精査し、新たに取り入れるべきものは取り入れていきます。予定されている総務経理事務の統合の機会に、事務局に依存していた作業を見直し、従業員間で効率よく担えるようにしていきます。また、人材確保のタイミングにあわせ、溜めてきた組織内のノウハウをさらに明文化し、新旧すべての従業員が意識を合わせ、志を高く持てるよう工夫していきます。

(5)コロニー中野

本年度より、実利用が見込めない就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型事業の定員を6名増員します。また、地域生活支援本部の管理を兼務して運営することとします。人員配置を見直し確実な支援体制を構築して利用率の向上を図るとともに、引き続き、高齢化や障害の多様化・重度化への対応にも取り組みます。作業に入ることが困難な利用者も関われる仕事を増やし、より高い工賃を目指す利用者には、就労支援事業の部署の再編成を行い、より効率的な生産体制を構築するとともに支援体制も充実させ、当事業所を利用するすべての人にとって、魅力の

ある施設運営を目指し、地域のニーズに応えていきます。

(6) 中野区仲町就労支援事業所

中野区との基本協定に基づき、中野区障害福祉計画に沿って魅力的かつ有意義な事業運営を目指します。また、社会生活に困難がある方への対応も可能となるように区内施設・サービスとの連携協力を進めます。通所率の向上と就労移行支援事業の定員の充足を目標に、日々の支援の充実に努力します。福祉サービス第三者評価受審を予定し、利用目的に沿った個別支援計画により、主体的に目標達成できるよう支援を行います。引き続きコロナ禍の影響を最小限に抑えるよう努力し、感染予防を継続します。

(7) コロナー東村山

就労支援事業では、印刷事業を大きな柱としながらデジタル化事業の高収益化に取り組み、売上の安定化を図っていきます。必要加工高を確実に確保し、利用者の賃アップを全従業員が意識して取り組みながら、借入金の返済に可能な限り努力します。障害福祉サービス事業については、障害の重度化、高齢化、多様化にあわせたQOL（生活の質）の向上などの生活支援にも関係機関と連携して取り組みます。職場実習や利用希望者は積極的に受け入れを行い、個別ニーズを的確に把握し、受け入れ態勢を整えて利用者増を図ります。

東村山市から受託している「東村山

市障害者就労支援室」は、引き続き現体制で取り組み、業務の効率化を図りながら市民のニーズに添えていき、特定相談支援事業所「ふきのとう」は、東村山市および市内近隣相談支援事業所と連携しながら地域の期待に添えられるように、それぞれのノウハウを十分に活かしながら対応していきます。

(8) トーコロナ青葉ワークセンター

前年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったことから、土曜プログラムを3年ぶりに開始しました。本年度は、感染症予防に配慮し平日のプログラム活動を再開します。継続的な事業所利用につなげるために、スポーツやレクリエーション活動を充実させ、利用者の精神や肉体の健康維持を促進していきます。また、就労支援と同様に、日中活動支援を充実することで通所への目的意識を高め、利用者数の確保や利用率の向上を目指します。併せて、支援の質を高めるために、職員の支援の実践につながる研修や適宜ミーティングなどを開催し、組織全体で支援力アップに取り組みます。

(9) コロナーもみじやま支援センター

コロナ禍による利用率への影響も減少し、安定した事業体制を確立しつつあります。トーコロナ情報処理センターおよび職能開発室と連携して、地域から必要とされる施設を目指します。多機能型施設の各サービスを有機的に活用して、個別ニーズに沿った支援計画の作成と支援内容の充実を図り満足

度の向上に努めます。感染予防には継続して取り組み、処遇向上を念頭に就労支援事業の量と種類を提供できるよう努め、利用者のQOL向上のため、ストレスの軽減や体調維持に配慮したプログラム等を実施していきます。

(10) 東京都葛飾福祉工場

本年度も、防災部門、製袋部門、縫製部門、栽培部門ともに厳しい事業展開が予想されますが、全事業部門で協力して結果を残せるよう努力していきます。福祉サービスは、通所が楽しい施設となるよう、引き続き余暇活動や教育研修プログラムを充実させます。特定相談支援事業は、葛飾区や関係機関等との連携を密にし、他の相談支援事業所と協力しながら、引き続きサービス等利用計画を立案します。個人情報保護や虐待防止・権利擁護研修等についても、感染予防対策を講じながら集合研修を再開し、特にハラスメントや虐待防止・権利擁護に関する正しい知識を習得するとともに、従業員同士の横の関係や、上司と部下等の縦の関係において、互いに相談しやすく、また、オープンに意見交換ができるよう風通しの良い職場環境作りに取り組みます。

本年2月に竣工した新立石工場への移転作業については、入念に準備のうえ事業に影響がないよう遅滞なく実施し、通所ルートや環境が変わる利用者についても、事故防止や体調に配慮をきたさないよう丁寧な支援していき

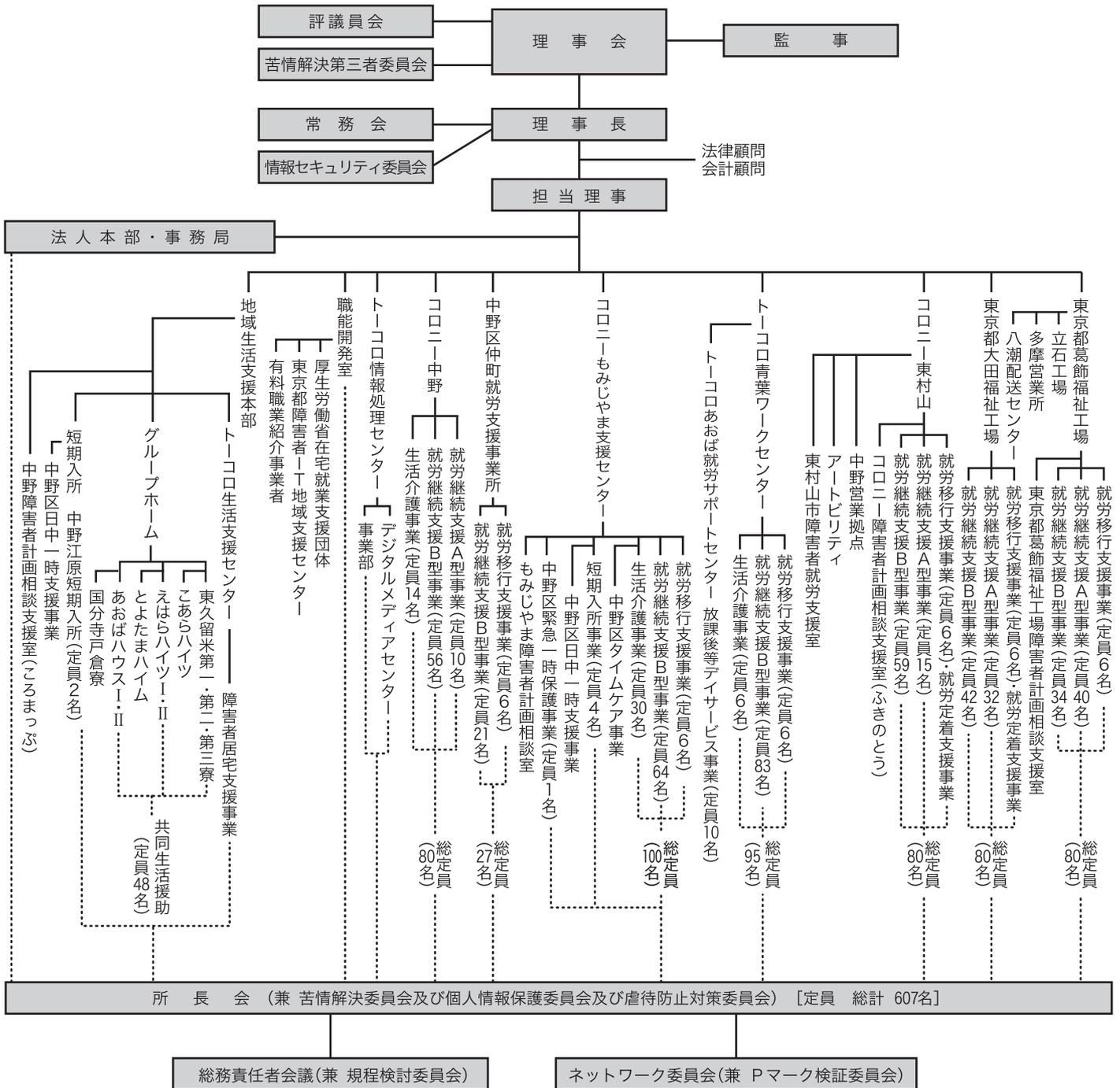
ます。

(11) 東京都大田福祉工場

本年度で創立50年目を迎えます。様々な課題に向き合い不断に変革することを目指します。

印刷事業は、コロナ禍の影響を受けましたが、「障害者優先調達推進法」を活用し売上高の回復に努めた結果、一定の成果を残すことができています。本年度は、印刷事業統括システムをバージョンアップし、原価計算に基づく利益管理の本格運用に目処をつける予定です。加えて、生産活動の改善に向け、コミュニケーションの活性化、連携、従業員の多能化をめざすなど、横断的な組織の構築に努めると同時に、内製化の推進、官公需を中核とした新規クライアントの開拓、競争仕入れをさらに強化し収益向上に努めます。

障害福祉サービス事業では、メンタルなど様々な困難課題を抱える利用者が年々増加しており、利用率の低下が大きな課題になっていきます。利用者に寄り添い、個々に抱えるニーズや課題に添えるためにも一層のチーム支援力の充実を図ることが求められており、支援力向上に向け支援専門職の補充を行うと同時に、現職支援員の計画的な育成に努めます。



2024（令和6）年度 予算書

2024年 4月 1日

(単位：円)

勘定科目		前年度予算額	当初予算額	増減	
事業活動による収支	収	就労支援事業収入	4,937,354,000	5,004,103,000	66,749,000
		障害福祉サービス等事業収入	1,309,686,810	1,308,840,020	-846,790
		その他の事業収入	188,906,596	194,164,420	5,257,824
		経常経費寄附金収入	8,786,000	8,249,000	-537,000
		受取利息配当金収入	1,009,750	1,017,350	7,600
		その他の収入	48,477,045	47,491,549	-985,496
		事業活動収入計(1)	6,494,220,201	6,563,865,339	69,645,138
	支	人件費支出	963,942,643	972,476,962	8,534,319
		事業費支出	109,125,000	108,758,361	-366,639
		事務費支出	249,004,170	248,594,470	-409,700
	就労支援事業支出	4,898,817,000	4,839,010,246	-59,806,754	
	その他の支出	160,694,099	157,593,588	-3,100,511	
	利用者負担軽減額	8,931,000	8,551,000	-380,000	
	支払利息支出	6,865,000	7,725,000	860,000	
	その他の支出	6,200,000	6,209,226	9,226	
	事業活動支出計(2)	6,403,578,912	6,348,918,853	-54,660,059	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	90,641,289	214,946,486	124,305,197	
施設整備等による収支	収	施設整備等補助金収入	3,001,000	10,305,000	7,304,000
		固定資産売却収入	1,090,911		-1,090,911
		その他の施設整備等による収入	124,000	24,000	-100,000
		施設整備等収入計(4)	4,215,911	10,329,000	6,113,089
	支	設備資金借入金元金償還支出	25,956,000	25,956,000	
	固定資産取得支出	713,469,080	108,357,000	-605,112,080	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	4,524,000	4,261,000	-263,000	
	その他の施設整備等による支出	2,359,000	2,279,000	-80,000	
	施設整備等支出計(5)	746,308,080	140,853,000	-605,455,080	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-742,092,169	-130,524,000	611,568,169	
その他の活動による収支	収	積立資産取崩収入	722,295,278	29,000,000	-693,295,278
		拠点区分間長期借入金収入	69,063,994		-69,063,994
		事業区分間長期貸付金回収収入	3,000,000	3,000,000	
		拠点区分間長期貸付金回収収入	18,963,994	9,000,000	-9,963,994
		事業区分間繰入金収入	6,750,000	6,263,000	-487,000
		拠点区分間繰入金収入	64,638,000	63,570,000	-1,068,000
		その他の活動による収入計(7)	884,711,266	110,833,000	-773,878,266
	支	積立資産支出	69,459,217	22,915,000	-46,544,217
		拠点区分間長期貸付金支出	69,063,994		-69,063,994
		事業区分間長期借入金返済支出	3,000,000	3,000,000	
		拠点区分間長期借入金返済支出	18,963,994	9,000,000	-9,963,994
		事業区分間繰入金支出	6,750,000	6,263,000	-487,000
		拠点区分間繰入金支出	64,638,000	63,570,000	-1,068,000
		その他の活動による支出	1,150,000	700,000	-450,000
	その他の活動支出計(8)	233,025,205	105,448,000	-127,577,205	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	651,686,061	5,385,000	-646,301,061	
	予備費支出(10)	114,135,181	89,807,486	-24,327,695	
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-113,900,000		113,900,000	
前期末支払資金残高(12)		2,687,224,621	2,573,324,621	-113,900,000	
当期末支払資金残高(11)+(12)		2,573,324,621	2,573,324,621		

トピックス

コロニー中野

中野区役所新庁舎開業 (中野区役所印刷室)

中野区役所印刷室はコロニー中野が、2010年度から区内に在住の就労継続支援A型の就労場所として事業を開始しました。私自身は、2018年度から担当させていただき、現在はA型の方2名と支援員1名で業務を行っています。このたび、中野区役所の新庁舎が完成し、ゴールデンウィーク明けの5月7日から、白を基調にした爽やかな感じの部屋で、気持ちを新たに嬉しく働いています。



ます。

旧区役所は1968年に開業し、半世紀以上経過しています。ちなみに隣にある中野サンプラザは1973年からの開業なので、5年ほど区役所のほうが先輩です。名残惜しくも中野サンプラザは2023年の7月に閉館しています。旧区役所は中野駅北口からは徒歩で5分ほどと、利用するのにとても便利な場所でした。新区役所は、中野区立体育館が平和の森公園（沼袋駅）の近くに移動したため、その跡地に建てられました。その場所も、旧区役所から3分ほどのところなので駅チカではありません。

印刷室は旧庁舎では1階にありましたが、新庁舎では4階になったので数字以上に遠く感じます。また、セキュリティが強化されたため、駅の自動改札のようなセキュリティゲートがあり、カードをタッチして

出入りするようになったので、出勤時、退勤時はゲート付近とエレベーターは大変混雑しています。



おしゃれな外観で、1階部分は役所を感じさせないような天井が高い造りで、旧庁舎には無かったカフェテリアでは、ランチはもとよりモーニングもあり、さらにダイナーメニューではアルコール飲料もあるようです。中野にお越しの際は、是非区役所にも立ち寄ってみてください。

業務課 古谷 雅宏

中野区仲町就労支援事業所

新人従業員自己紹介

始めまして。2024年1月4日に中野区仲町就労支援事業所に入職しました。大橋弘治と申します。趣味はテニスと音楽鑑賞です。テニスはしばらくブランク期間があります

が、通算20年以上続けており、週1回テニススクールに通い日々のストレスを発散しています。

前職までの経歴は、一般企業での就労後、職場でのメンタル不調による休職者や退職者が増加しメンタルヘルス対策が重視される中で、メンタル不調・不全者の社会復帰支援の仕事を目指して2012年に精神保健福祉士の資格を取得しました。その後は約10年近く、主に就労移行支援事業所の支援員として、就労支援や施設の運営業務に従事しておりました。

入職して5か月ほど経過しましたが、新しい職場で慣れない環境の中でも、職員だけでなく、利用者の方々からいろいろな教えていただき、日々助けていただいている状況です。また今年度から就労プログラムの担当になりましたので、就労移行支援事業所での経験を活かし、就労希望の方に対してセミナー等の企業就労に役に立つプログラムの提供ができればと思います。

前職では新型コロナウイルスの影響で、利用者への食事提供と一緒に調理作業をすること等は禁止でしたが、現在毎週木曜日の調理プログラムや月2回のプログラムで、職員と利用者が一緒に作った昼食等を食べるのが楽



しみになっていきます。美味しくついつい食べ過ぎてしまうため、体重が増えてしまうのが最近の悩みです。現在は感染症対策のため外出等のプログラムはできませんが、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたら、前職のレクリエーションで実施していた健康維持のためのダンスや体操等の体を動かす機会を作れたらと思います。

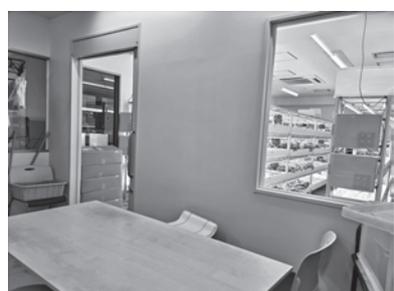
今後の目標としては、中野区仲町就労支援事業所の皆様の希望やニーズに応じた支援を心がけつつ、職員として事業所で一緒に楽しく過ごせるような環境づくりと、地域で安心して暮らせるような支援を行っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

支援課 大橋弘治

コロニーもみじやま 支援センター

カップサラダの販売を開始

コロニーもみじやま支援センターでは2018年度の開所当初より3階に水耕栽培室を設けています。レタス・ケール・ベビーリーフ等を栽培し、日中の作業では職員1名と利用者3名を配置、ローテーションで



日々交替しながら就労継続支援B型を利用する多くの方が関わる作業となっています。



24時間の照明・温度管理などの必要性により電気の使用が多いため、水耕栽培室を含むもみじやま支援センターの西棟3階は、節電のため地中熱ヒートポンプシステムを設置して竣工しました。

こうしてスタートした水耕栽培ですが、限られた面積での生産のため当初から大きな利益を期待してのものではありませんでした。とはいえ就労継続支援B型の作業として日常的に定着、また野菜自体が好評を得ても担当者間では検討されてきました。

今回限られた作付面積での収穫量

のなかで、いかに付加価値のある商品バリエーションができるかを考え、ドレッシング付のカップサラダを新商品として考案しました。同じタイミングで中野区障害者福祉事業団さんから、中野区役所移転に伴う福祉売店の新装開店に合わせて販売できないかとの後押しも受け、5月から中野区役所福祉売店への納入を開始することとなりました。

販売にあたってはそのまま口にすることを前提とした商品となるため、加工業としての営業許可とそれに適合するための設備投資も必要となりました。水耕栽培室内の作業スペースをさらに区切って壁面を設置、また調理室内から水耕栽培棚を見渡せるよう大きな窓を設けた造りとして閉塞感の少ない設計として頂きました。新庁舎開庁の5月に生産が再開できるよう工事を行い、許可申請も済ませるなど慌ただしいスケジュールではありましたが無事販売を開始しています。

生産体制の変化に伴って今後も検証や工夫も重ねていくこととなりますが、もみじやまの利用者の皆さんが関わった品が多くの人々の手に届くようこれからも商品の工夫や販路の確保に努めていきたいと考えています。

就労支援課 課長 落合桂太

コロナー東村山

イトーヨーカドー東村山店で自主製食品販売を頑張っています！

昨年度から東村山市障害者支援課よりイトーヨーカドー東村山店での自主製食品販売会のお話を頂き、市内のいくつかの就労支援施設と一緒に定期的に販売会を行っています。

食品売り場の端の方と、決して立地は良くありませんが、利用者さんと一緒に声を出して頑張っています。始めた当初は全く声を出せない利用者さんがほとんどでした。ところが一年間販売経験をした現在、利用者さんの成長には目を見張るものがあります。

Fさんは食品売り場に訪れる人が一番流れてくるエスカレーター下で商品の見本を持って「本日自主製食品



みんなで販売、頑張っています！



接客も積極的に利用者さんが行います。

販売会を行っています！」とずっと呼び込みを行っています。Oさんは一人で違うフロアでチラシを配って地下にお客様が流れるように誘導してくれて、獅子奮迅の働きです。Kさんはセールストークをすっかりマスターして「おばあちゃんはとても若いので、カラフルな組紐が似合いますよ。若いですよ。」などとお客様と談笑をしています。

この利用者さんの頑張りは他施設の職員にもすっかり認知されて「コロナーさんと一緒に販売すると呼び込みが凄いです、うちの販売ブースにもお客さんが多く来てくれて本当に助かります。」と喜ばれています。積極的に販売会に携わっていることで、東村山市障害者支援課からも「コロナーさん、ありがとうございます。」とお褒めの言葉を頂いていることも付け加えさせていただきます。

作業室では経験できない仕事であ

る、「販売」。販売を通して多くの利用者さんの新たな可能性と積極性を高め、日々の仕事やご本人の成長につなげてもらえればと職員一同願っています。

業務係 西谷啓介

トコロ青葉ワークセンター

土曜プログラム開催！

トコロ青葉ワークセンターでは、余暇時間を事業所として提供している「土曜プログラム」があります。コロナ禍を経て、昨年度より月1回



ペースで再開したイベントです。毎回、他部署よりランダムに選ばれた職員3名が担当し、内容は担当した職員で決め、お手紙を配布、希望者を募り実施します。毎回20名、25名程度の利用者のみなさんが参加し、好評いただいている活動の一つとなっています。

最初は、定番の「ポッチャ」からスタートし、「モルック」、今年度からは「映画鑑賞&マックで昼ごはん」で「昼食を作って食べよう!」の企画では、参加者でホットドック、フルーツサンドを作るなど、毎回担当職員が、利用者のみなさんに、楽しんでもらえそうな企画を出し合い、試行錯誤しながら開催しています。

5月の土曜プログラムは「手作りペットボトルでボーリング」を開催しました。ボーリングのピンの形はリアルに再現。2レーン作り、ボーリング場の雰囲気、近くに近くなるよう工夫。ゲームは3名のチーム



戦で行い、1回戦につき1人2回投げ、チームの合計が1回戦の合計となり、5回戦まで行い、最後6回戦目はストライク100点となる、一発逆転のチャンスを作りました。時々、「イエーイ」「よっしゃ!」などの歓声も聞かれ、笑顔で楽しんでいただけだと思います。

昼食は、焼き立てパン屋さんのサンドウィッチランチBOX、フルーチェと、ドーナッツを利用者みなさんで食べて解散!

帰りは「楽しかった」「次はいつ?」と声を掛けていただき、担当職員も大変励みになっています。

いつもの職場の仲間と楽しみたい方、一人での外出に不安がある方、今後も利用者みなさんが余暇を十分に楽しんでいただける活動にしたいと思っています。

支援課 看護師 岡田由紀子

トータル情報処理センター

私のお仕事

私は2015年3月に入職して20年目になります。私の所属するトータル情報処理センター事業部は、入力業務を事業の柱とし、電話交換業

務や総合案内業務等を行っており、私は入力業務をしております。入力業務といってもパソコンを使用するのではなく、データ入力専用機による入力業務です。

私は身体障害からくる筋肉が異常に緊張する症状があります。突然手や首、体全体などが自分の意志通りに動かなくなることがありますが、色々な工夫をしながら入力業務に励んでおります。

入力データは税金関係のデータ、資格試験の受験票や受験結果、鍼灸マッサージ関係等のデータを入力していますが、個人情報に記載されているデータのため、慎重に取り扱わなければなりません。

繁忙期には入力データが大量にあり期間も短い中で、なおかつ正確に入力をしなければならぬため緊張して手が思う様に動かないこともありました。その都度、上司や先輩方よりアドバイスをもらい、いまでは毎月5回程度、一人で自治体に出向いてデータ入力を任されるまでになりました。こちらの自治体での仕事内容は、銃刀の手続きに必要な申請書の入力です。新しく取得したとき、銃や刀の申請書の作成をします(ちなみに当事者が申請をしないといないと銃刀法違反で罰せられま

す)。中には刃文といい、刀に彫られている古文のような難しい文字も入力しています。将軍時代から受け継がれている刀の申請書もあり、元々、歴史がとても好きなので興味深いものがあります。海外から輸出入の刀などの申請書の作成、所有者が変更した時、住所が変更になった時の申請書も作成しております。今では、自治体の皆様にも信頼していただいている入力業務をしています。いまだに、スーツを着込んで自治体に行くときは緊張しております。

まだ至らない点が多々ありますが、東京コロニーの一員として、築き上げてきた信用を失うことのないようにこれからも頑張っていきたいと思っています。

事業部 栗田翔太郎

東京都葛飾福祉工場

立石工場の移転を終えて

立石工場は生産事業部(封筒製造・販売)と支援部(就労移行支援・就労継続支援B型)が事業を行っております。立石工場が開設されてから30年以上が経過し、老朽化等の問題から建て替えあるいは移転新築の話が



2階 製袋作業室(移転前)

具体化し、「立石工場建替えプロジェクト会議」の第1回会議が開催されたのが令和2年暮れでした。それから令和6年3月30日の移転完了まで、関係機関との打合せや建設会社や設備会社等との会議を重ねてまいりました。

当初は漠然としたイメージしか持てませんでしたが、着工が近づくにつれ、いよいよ移転が現実味を帯びてきました。実際に移転先となる立石3丁目の建設予定地に重機が入り、建物が徐々に階数を増やしていく様子を取引先に向かう道すがら毎日目にしている、図面上の世界から次第に現実の世界へと変わって行きました。各階フロアが形を成してくる



4階 食堂

と、レイアウトや設備等に関して様々な問題が発生し、その都度会議で調整するという作業が建物完成まで続きました。床材、壁材、什器等に関しても細かな打合せを何度も繰り返して、最終的な仕様の決定に至りました。移転後に改めて気付くこともありますが、なんとか無事に竣工することができたと思います。

令和6年3月27～30日の生産機械の移設・事務所移転の一大イベントに向け、3月の年度末の最中になんとか仕事を調整しながら準備を進め、各部署の片付けや移動する物品の選別と荷造り、生産機械類の移設の手配、そして廃棄物の解体や搬出準備に至るまで皆が協力して進めました。そして無事に移転作業が完了し、旧工場の後片付けも終わりました。

新工場が令和6年4月1日より開所され、まだ日が浅いですが、徐々

に皆さんが通勤や通所に慣れ、新しい工場にも慣れ始めています。これから先数十年にわたり使用する新しい立石工場を次世代にも大切に使用してもらえよう、事業を継続し繋げていきたいと思います。

生産事業部 工務課長 三澤恭太

東京都大田福祉工場

地域活動に取り組んでいます

就労支援課の重要な活動の一つとして地域交流に力を入れております。その中で、私が担当をしている施設外プログラム活動では沢山の地域交



外プログラムでウルトラマン体操

流を行ってきました。

1つ目に「外プログラム」では毎日1時間ほど、大田福祉工場の周辺の清掃活動や地域散策、小学生との交流を行っています。最近では、地域周辺を利用者さんと共に歩きながら、近くの公園に行きます。公園では利用者さん一人ひとりが考えた、体操を行います。ラジオ体操やウルトラマン体操等、楽しい雰囲気です。

2つ目に公園清掃です。工場の近くにある公園で週2日、休憩を挟みながら2時間ほど清掃をしています。ごみの分別やトンングでのゴミ拾い、掃き掃除を行います。公園清掃作業中に、地域の方から「いつもありがとうね」と言って頂ける場面があり、皆さんも喜びを感じながら、やりがいを持って活動することができて



公園清掃



ひまわりの花壇に水やり

います。
3つ目に「大森海苔のふるさと館」での活動です。基本的には月3回程、行かせて頂いております。大森海苔のふるさと館は、海苔養殖の歴史や生活技術の伝統文化を継承していくことに加えて、海苔や海辺に関する様々な情報を発信しています。館外の活動としては、この時期ひまわり栽培を行っているので、花壇の雑草抜きや、種まき、水やりを行っています。海苔の博物館の特徴として、職員さんとの交流の機会があります。前は、新聞紙で兜折りをしたり、GWの思い出を皆さんで楽しくお話しをしました。

私は地域活動を通じて、自主性を伸ばしていくことが大切だと考えています。ある日の「外プログラム」で、利用者さんが中心となり地域散策や体操を決めてもらった時に、皆さんの顔がすごく生き生きとしていたのがつかまりました。その時、私は支援員が直接伝えることも時には必要だと思いますが、自分で考え行動を起こすことで色々な経験ができるのではないかと感じました。これからも、利用者主体を大切にしていきたいながら成功・失敗体験を通じて利用者さんの成長に繋げていけるように活動していきたいと思えます。

就労支援課 平塚朋希

地域生活支援本部

21年慣れ親しんだ 浴室をリニューアル

東久留米氷川台寮は、開所して21年が経ちました。21年も経つと、様々な箇所が劣化や不具合が起きてくる頃でもあり、修繕等が必要なところが出てきています。

このたび、2024年3月下旬に3日間の工事日程で、第2寮2階の浴室をリニューアルしました。どんなものでも長年使ってきたものというの、それぞれ使っている方の愛着や、古くはなってもそれはそれで親しみがあったりしますが、毎日スタップが掃除をしていますが、通常の掃除では落とし切れない汚れがどうしても少しずつは出てきます。一新することに踏み切るには何かと決断がいりますが、やはりお風呂は体をキレイにする場所なので、キレイが一番!! ということでリニューアルを決断しました。



初日から車3台ほどの搬入があり、グループホームの駐車スペースはギョウギユウになりました。浴室の床下がコンクリートになっていたりというイレギュラーなことがあって、

そのコンクリートを壊す必要が急遽出たりと、初日から外が暗くなる夜まで業者の方の必死の作業が続きました。最終日の3日目も想定より時間がかかり、結局終わったのは夜でした。

おかげさまで、とてもクリーンな浴室になりました！浴室は明日への英気を養うところでもありますので、踏み切ってみて本当に良かったと思います。

東久留米氷川台寮
サービス管理責任者 橋本 晃



2023（令和5）年度 事業報告

1. はじめに

本年度の事業計画は、当面は徹底した感染症予防対策を余儀なくされることを想定して厳しい予算を立てながらも、ウイズ・コロナに向けて運営することとしました。2022年に始まったロシアによるウクライナ侵攻は深刻化しており、また、新たなガザ地区での紛争も加わり、生活用品を含む様々な物資の高騰により仕入れ材料なども値上がりし、加工高確保にも影響が及んでいる状況です。各国では緊張が高まっており平和への影響も懸念されています。

わが国も批准した国連障害者権利条約は、国連障害者権利委員会によるわが国の初回審査が2022年8月に実施され、会期末の9月には総括所見が公表されました。福祉施設等の分離政策に懸念が示され、人権モデルを基調としたインクルーシブ（包容）な社会環境へと変えていくことを勧告されています。2024年4月施行の「改正障害者総合支援法（障害福祉サービス等報酬改定を含む）」にも少なからず反映されている状況であり、とりわけ、報酬改

定の情報把握に努め、混乱を招かないよう準備を進めました。

中期事業計画（5カ年計画）を確実に進めるべく、期中には管理職研修を行うことで進捗状況を総括し、毎月の常務会で課題整理して具体的に取り組みました。現在の事業本部制は本年度をもって廃止することを決定し、規程等の見直しや拠点のあり方などを整理するなど、2024年4月から新体制で運営できるように準備しました。

2. 法人全体の経営状況ならびに方針に対する運営結果

本年度の事業運営は、コロナ禍の影響により様々な活動に制限が余儀なくされる中、事業の結果は次のとおりとなりました。法人全体の事業活動計算書における当期活動増減差額は97,925千円を計上し、貸借対照表における純資産は7,244,725千円、事業活動計算書における次期繰越活動増減差額は4,535,984千円となりました。

在籍者の推移では表2に示すとおり、総人数911名（前年度末921名）で

10名減（非常勤嘱託医を含まない）、内障害者は623名（前年度末632名）で9名減、障害者比率は68・4%（前年度末68・6%）となりました。期中の就労移行者は、福祉サービス事業以外の移行者を加えて、67名を送り出しました。法人全体の在籍者は、契約者・登録者（表2…参考資料）1,746名を加えると2,657名の人達に責任を負う組織となりました。

(1) 経営の基本方針について
・ 経営理念や倫理、社会的役割に伴うコンプライアンスやガバナンスを重んじた法人運営に継続して取り組みました。

・ 福祉サービスの質的向上のために、第三者サービス評価機関の審査を受審し、苦情解決制度の継続や広報誌やホームページ等による情報開示に取り組みました。

・ 法改正や業務改善などに伴う法人の規程等を必要に応じて見直しました。

・ 活動の視野を広く持ち、国際交流などにもつながる事業を模索しました。

・ 財務・資金管理について
・ 会計顧問の指導を受けながら、会計基準により精度の高い管理に努め、さらに外部会計監査人の指導を会計管理に反映させました。

・ 財務や資金管理について、法人本部が拠点の状況を把握し、拠点間の窓口となって調整に努めました。

・ デジタル化事業に取り組んでいるコロナー東村山の資金繰りの必要性から、理事会の承認を受けて前年比1億円を増額して外部金融機関から借り入れました。

(3) 事業の継続について
・ 常に経営改善に視点を置き、持続可能な事業への体質改善に努力しました。

・ 障害福祉サービス事業所に策定が義務化されたBCP策定および感染症対策の強化を年度内にすべて完了しました。

・ SDGsを言葉だけでなく、具体的な活動につなげるために法政大学ならびに中野区とパートナーシップを結びました。

(4) 人材確保・育成について
・ 継続的に求人広告をホームページや求人媒体に掲載し、人材確保に努め

ました。

・経営や福祉の専門性を向上すること
を目的とした教育、研修を計画し、オンライン等も活用して実施しました。
継続して人材育成に取り組みとともに、人事考課制度を活用して上長との面談等をつうじて風通しの良い職場環境づくりに努め、一人ひとりの活躍の場の充実を目指しました。

・中堅従業員を対象に、外部講師による「アサーティブ・コミュニケーション」信頼関係を築く聞き方・伝え方」「メンタル不調による離職・休職を防ぐリーダーのためのラインケア」等をテーマに集合研修を、管理職を対象に、ハラスメント防止・心理的安全性に関する外部講師によるセミナー、ならびに中期事業計画の経過と次年度体制についてのレクチャーと意見交換を行いました。

・6月の役員改選に伴い、新たな理事・監事を登用しました。所長級人事や管理職人事を含め、世代交代を視野に人材確保や人材育成、引き継ぎ等に努力しているところです。

(5)他の団体との協力連携について
・障害者福祉の向上のために、各省市町村に、東京都、各区市自治体、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコロ、特定非営利活動法人日本障害者協議会、全国社会就労センター、日本セルフ

センター、東京都セルフセンターなどにおいて積極的に役割を果たしました。また、従業員等が、対外的な立場において十分に役割発揮ができるように配慮し支援しました。

(6)地域活動について
・拠点ごとの地域活動においては、各自治体との連携を深め情報交換を密にししながら、地域福祉の向上ならびにニーズに応じた障害者福祉の充実に努めました。また、地域の福祉関連ネットワークには積極的に参画し、重要な社会資源として役割を果たしました。

3. 各事業本部の事業運営概要

各拠点では、中期事業計画を基本に、支援の質の向上、経営の安定化を目指して運営にあたりました。新型コロナウイルスが5類になったことで、感染予防対策を継続しながら段階的に通常運営に戻しました。

(1)法人本部(事務局)

中期事業計画(2022～2026年度)の2年度目にあたり、懸案の事業本部制の見直し、事務統合等各課題にそって具体的な準備を進めたほか、関連する法律および通達に従って内外業務の実務を行いました。5月に感染法上5類に移行した新型コロナウイルスへの対応は、引き続き感染状況や感染予防の情報共有を行いました。障害福祉サ-

ビス事業所の策定義務の経過措置期間が終了するBCP策定および感染症対策の強化を年度内にすべて完了しました。

(2)福祉事業本部(グループホーム等、トータル生活支援センター)

地域生活を支援するグループホーム、短期入所、居宅介護事業、特定相談支援事業等を運営しました。グループホームは、引き続き通常どおりの運営をし、コロナ禍で利用率が低くなっていた短期入所や移動支援については、5類になったことで利用が増加しつつありますが、特に上半期は、グループホーム入居者、従業員共に新型コロナウイルス陽性者や濃厚接触者が多かったため、スタッフ配置も含めた緊急対応を行う場面がありました。

(3)IT事業本部(トータル情報処理センター(事業部)、職能開発室、デジタルメディアセンター)

法人内部においては、基幹システムの安定稼働に対する連携やネットワークを介しながら、法人内部のIT部門として役割を担いました。次年度からの事業本部制の廃止の方針に伴い、事業部とデジタルメディアセンターを統合してトータル情報処理センターとして運営することや、経理事務の統合も予定しており、その準備を進めました。事業部では、コロナウイルス感染症が5類に移行したことで若干の動きは

ありましたが、厳しい状況は続いています。自治体受託業務においては、業務の見直しや縮小によって計画した受注量を確保できず、税務データもデジタル化が進んでおり、受注量は減少傾向となっております。

職能開発室では、新型コロナウイルス感染症が5類になったことで、オンラインで開催していたものをケースによっては対面に戻す対応を取りました。外部講師の契約を解除し従業員のみで教育事業を実施するなど、世代交代を目指した人員調整をスタートしました。3本柱の情報処理教育事業、在宅就労支援事業およびICT機器支援事業(東京都障害者IT地域支援センター事業)はいずれも順調な運営となり、多くの方の協力を得て充実した内容となりました。

デジタルメディアセンターは、システム開発や運用支援、ホームページ制作といった業務を主軸に企画や提案等を行い、特に既存顧客に向けた受注活動を積極的に展開しました。売上高の多くは既存顧客からの受注であり、年間一括業務受託を柱に受注確保に努めました。コロナ禍の影響が残っており、規模の縮小や中止、または、納期が延期されることなども発生しました。一方で、厳しい状況の中でも長期的なシステム改修案件を受注に結び付けることができ、これまでの既存システムの開発実績と保守実績を強みにコーデ-

ネットしたことや、作業の内製化やコスト削減を図るなどして、継続性の確保につながりました。

(4)社会就労事業本部(コロナ中野、中野区仲町就労支援事業所、コロナもみじやま支援センター、コロナ東村山、トコ青葉ワークセンター)

コロナ中野では、生活介護事業や就労継続支援B型事業で少しずつ利用率が上がってきました。就労移行支援事業においては、利用者不在が続いており、中野区と協議しながら事業廃止を検討しました。印刷関連事業は厳しい状況が続いていますが、飲食事業では原価率や販売価格の見直し、積極的な外部販売に取り組んだことで、前年度を大幅に上回る成果をあげることができました。封入封緘等の軽作業においても単価の良い入札案件を多数受注し、前年度を上回る売上高となりました。地域活動では、中野区内社会福祉法人等連絡会で実施する、フードパントリー事業や子ども子育て応援プロジェクトなど積極的に参加・活動し、地域福祉の向上に努めました。

中野区仲町就労支援事業所は、指定管理期間3年目の運営となりました。区と締結した基本協定、管理運営業務に関する協定を遵守し、個々のニーズに対応した支援内容の充実に取り組んだ結果、通所率は年間をつうじて安定したものとなっています。新型コロナウ

イルス感染症は5類に移行しましたが、感染リスクを低減するため年間を通して1時間の短縮利用を継続しました。

コロナもみじやま支援センターでは、コロナ禍の影響もほぼ解消し日常に近い活動環境に努めたことで、高い利用率を確保することができました。就労支援事業は売上を順調に伸ばすことができているが、工賃向上をより進めるために、新たな事業の可能性を探る年度となりました。

コロナ東村山では、印刷事業やデジタル化事業を両輪に展開した結果、前年度を上回る売上高を残すことができました。就労移行支援事業は期中に新規の利用者がなく、今後の方向性を検討しましたが、就労継続支援B型事業からの利用変更の可能性を残す理由で事業を継続することとしました。東村山市から受託している東村山市障害者就労支援室では、コロナ禍から求人数が増加している影響も受け、就職者数、登録者数ともに増加しています。

トコ青葉ワークセンターでは、コロナ禍前の環境に戻りつつあるなか、各事業共通の課題である利用者数、利用率、利用日数の増加に向けて取り組みました。再開した土曜プログラムは、毎回20名以上が参加し利用者から高評価を得ており、放課後等デイサービス「アーバ」と合同での企画も実施し、それぞれの利用者の交流の場となりました。

(5)福祉工場事業本部(東京都葛飾福祉工場、東京都大田福祉工場)

東京都葛飾福祉工場は、立石工場の移転新築工事で建築資材の不足により着工が遅れる事態となりましたが、関係者等の協力により無事に竣工しました。引き続き、より良い支援・より良いサービスが提供できるよう事業所全体で取り組み、利用者の立場に立ち、一人ひとりが満足できるような利用目的に沿った支援を心掛けています。研修や会議は、虐待防止・身体拘束適正化研修を金町と立石でそれぞれ実施し、部次長会、幹部会についてはオンラインにより開催しました。コロナ禍の影響により臨時休業していた金町工場別館1階のアンテナショップは1月に再開しましたが、レタス等の販売は無人販売にしました。在宅就労支援は、事業所のホームページの更新や防災・避難用品カタログのデザイン制作等を担当し、防災事業等の販売促進に貢献しました。縫製事業は、見込生産を継続して突発的な注文に対応できる生産体制に努め、また、縫製技術を生かして廃棄カーテンをトートバッグにリメイクする縫製作業を受注しています。製袋事業は、コロナ禍においても売上は予算を達成しました。防災事業は、全国の自治体等の災害対策計画も再開され少しずつコロナ禍以前に戻り始めており、加えて元日に発生した、能登半島

地震の影響により受注額が増加しました。

東京都大田福祉工場は、5類に移行後も感染対策を継続しましたが、7月にクラスターが発生(従業員15名感染)しました。大田区や保健所等と連携して対応にあたり、工場内の協力連携で生産活動への影響は最小限に留めたものの、就労継続支援B型事業は2日間閉鎖しました。生産活動は国省庁や独立行政法人など官公需は回復しましたが、変動費も大きく増加し、加工高は対前年度比で106.0%の増加となりました。就労移行支援事業では3名を一般就労につなぎ、就労定着支援事業は満期終了により年度末登録者が対前年度3名減員の6名となりました。就労継続支援B型事業では、一部利用者の通所率の低迷、困難課題を抱える利用者への支援が残り平均実利用数が減少しています。従業員の人員不足を課題として障害者従業員を求人しましたが採用には至りませんでした。引き続き、ストレングスを常に意識し、主体性と自己決定に基づくパートナーシップを基礎に支援を進め、障害の有無にかかわらず誰もが安心して働くことができる「心理的安全性」の確保を最重要課題として位置づけ、人権課題を担う活動を推進しています。

表1. 補助事業および補助金による施設設備等整備事業報告

(1) 補助事業 (順不同)

組織名	事業内容 (事業所名)	補助金
東京都	重度身体障害者在宅パソコン講習事業 (トーコロ情報処理センター機能開発室)	5, 888千円
三菱商事株式会社	重度身体障害者在宅パソコン講習事業 (トーコロ情報処理センター機能開発室)	5, 000千円
沖電気工業株式会社	重度身体障害者在宅パソコン講習事業 (トーコロ情報処理センター機能開発室)	800千円
公益財団法人 日本社会福祉弘済会	2023年度es-teamミーティング開催 (研修事業)(東京都葛飾福祉工場)	80千円

(2) 補助金・寄付金による施設設備等整備 (順不同)

組織名	整備内容 (事業所名)	補助金
社会福祉法人 東京都共同募金会	衣類乾燥機 (えはらハイツ I)	40千円
	引戸交換工事 (えはらハイツ II)	240千円
	バルコニーパネル張り工事 (中野江原短期入所)	230千円
	紙文書溶解処理機 (コロニー中野)	2, 640千円
	ポッチャ用具一式、モルック用具一式 (トーコロ青葉ワークセンター)	36千円
	キャッシュレス対応レジスター (コロニーもみじやま支援センター)	130千円
緑川化成工業株式会社	エアレジ (東京都葛飾福祉工場)	300千円

表2. 在籍者の推移

2023(令和5)年4月1日から 2024(令和6)年3月31日まで (単位:人)

	前年度末 在籍者数	期中増減				主な減員理由			年度末 在籍者数
		増員	減員		自己都合	一般就労	疾病、 その他		
雇 用 就 労 者	97	5	(0)	7	(0)	1	0	6	95
	(85)	(3)	(0)	(7)	(0)	(1)	(0)	(6)	(81)
事業・施設の利用者	442	40	(0)	47	(0)	24	11	12	435
そ の 他	93	24	(0)	24	(0)	3	0	21	93
障害がある在籍者 (計)	632	69	(0)	78	(0)	28	11	39	623
	(85)	(3)	(0)	(7)	(0)	(1)	(0)	(6)	(81)
障害がない在籍者	289	52	(8)	53	(8)	28	0	17	288
合 計	921	121	(8)	131	(8)	56	11	56	911
	(85)	(3)	(0)	(7)	(0)	(1)	(0)	(6)	(81)

- (注) 1) A型従業員については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の()で再掲している。
 2) 増員および減員の各右欄には法人内異動を()で表記している。
 3) 「その他」にはグループホーム利用者・在宅パソコン講習生・放課後等デイサービス利用者・定着支援利用者を含む。
 4) 在籍者数には非常勤嘱託医を含まない。

表2. 参考資料；「在籍者の推移」に含まれない人員状況

2023年度末及び2023年度中人数

(単位：人)

	登録・契約障害者	一般就職者	トライアル 雇用者等	一般就職者累計
福祉事業本部 (短期入所、移動支援、居宅介護等)	233	—	—	
中野障害者計画相談支援室 「ころまっぶ」	*1 122	—	—	
IT事業本部 (在宅教育修了生、職業紹介登録者等)	14	*2 1	0	
東村山市障害者就労支援室	680	55	0	
コロニー障害者計画相談支援室 「ふきのとう」	*1 162	—	—	
アートビリティ	*3 200	—	—	
東京都葛飾福祉工場 障害者計画相談支援室	*1 43	—	—	
コロニーもみじやま支援センター (短期入所、日中一時支援)	224	—	—	
もみじやま障害者計画相談室	*1 68	—	—	
計	1,746	56	0	

*1 計画相談契約者数

*2 在宅教育修了者からの一般雇用 1人、職業紹介事業からの一般雇用0人

*3 契約者以外の作品利用が行われた数も含めているため概数としている。

*4 在籍者以外で2007.4～2024.3に当法人で就職をサポートした人の累計

表3. 障害・非障害者及び男女別総括表 (人)

2024年3月31日現在

事業所名	①身体 障害者	②知的 障害者	③精神 障害者	④その他 障害者	⑤非障 害者	①+②+③+④+⑤ 総人員(人)	男女別人員(人)		平均年齢・在籍	
							男	女	年齢(才)	在籍(年)
法人本部					5	5	2	3	53.8	20.2
福祉事業本部	6	38			19	63	46	17	52.5	10.7
トータル情報処理センター事業部	5		1		12	18	3	15	47.2	17.0
トータル情報処理センター職能開発室 (含：事務局)	9				3	12	8	4	40.9	6.5
デジタルメディアセンター	1				3	4	3	1	53.0	19.8
コロニー中野	22	37	19		25	103	69	34	49.3	10.9
中野区仲町就労支援事業所			33	7	6	46	27	19	50.7	5.9
コロニー東村山	20	40	14	3	62	139	95	44	43.1	9.7
トータル青葉ワークセンター	13	61	26	32	28	160	103	57	36.0	10.0
コロニーもみじやま支援センター	7	78	3	1	30	119	60	59	36.0	5.0
東京都葛飾福祉工場	29	26	9		57	121	74	47	44.5	14.1
東京都大田福祉工場	29	25	29		38	121	86	35	47.6	9.4
計	141	305	134	43	288	911	576	335	43.6	9.9

表4-1. 就労移行支援事業および就労継続支援B型事業
定員・現員ならびに工賃と就労移行の状況 (2023年4月～2024年3月)

事業所名	サービス名	定員 (人)	現員 (人)	平均工賃 (円/1人1ヶ月当)	一般企業等への移行 (人)
コロニー中野	就労移行	6	0.0	—	0
	就労継続B型	50	48.9	34,319	0
中野区仲町就労支援事業所	就労移行	6	0.0	—	0
	就労継続B型	21	14.9	40,317	0
コロニー東村山	就労移行	6	0.0	—	0
	就労継続B型	59	57.4	29,093	1
トーコロ青葉ワークセンター	就労移行	6	1.2	24,153	3
	就労継続B型	83	71.8	33,774	1
コロニーもみじやま支援センター	就労移行	6	0.2	8,501	0
	就労継続B型	64	53.6	18,395	0
東京都大田福祉工場	就労移行	6	1.1	39,160	3
	就労継続B型	42	32.0	53,438	0
東京都葛飾福祉工場	就労移行	6	1.9	16,921	3
	就労継続B型	34	23.4	26,821	0
サービス別計	就労移行	42	4.1	25,832	9
	就労継続B型	353	301.8	32,132	2
総計 (平均)		395	305.9	32,047	11

*現員は年間をとおしての平均現員。
*平均工賃は賞与、交通費等、本人に支払った全ての金額を工賃と見なし、
その総額÷1日あたりの平均利用者数÷12か月で算出している。(2024年報酬改定に準ずる)
*「一般企業等への移行」欄にはA型雇用への移行を含む。

表4-2. 就労継続支援A型事業
定員・現員ならびに賃金の状況
(2023年4月～2024年3月)

事業所名	定員 (人)	現員 (人)	平均賃金 (円/1人1ヶ月当)
コロニー中野	10	5.7	236,396
コロニー東村山	15	14.0	208,003
東京都大田福祉工場	32	33.0	340,210
東京都葛飾福祉工場	40	27.7	318,794
総計 (平均)	97	80.3	302,827

*平均賃金には、各種手当、賞与を含む(交通費は除く)。

表4-3. 生活介護事業
定員・現員ならびに工賃の状況
(2023年4月～2024年3月)

事業所名	定員 (人)	現員 (人)	平均工賃 (円/1人1ヶ月当)
コロニー中野	14	10.1	19,737
コロニーもみじやま支援センター	30	24.0	6,023
トーコロ青葉ワークセンター	6	2.8	21,313
総計 (平均)	50	36.9	10,937

*平均工賃は賞与、交通費等、本人に支払った全ての金額を工賃と見なし、
その平均額を算出。

表5. 福祉サービス 苦情申出状況 (2023年4月～2024年3月)

事業所	申出件数	申出内訳				解決状況			
		対事業所	対従業員	利用者間	その他	事業所内解決	(第三者委員関与)	未解決	その他
法人本部	0	0	0	0	0	(0)	0	0	
福祉事業本部	0	0	0	0	0	(0)	0	0	
IT事業本部(三事業)	0	0	0	0	0	(0)	0	0	
コロニー中野	0	0	0	0	0	(0)	0	0	
中野区仲町就労支援事業所	0	0	0	0	0	(0)	0	0	
コロニー東村山	1	0	0	0	1	(0)	0	0	
トーコロ青葉ワークセンター	0	0	0	0	0	(0)	0	0	
コロニーもみじやま支援センター	0	0	0	0	0	(0)	0	0	
東京都大田福祉工場	0	0	0	0	0	(0)	0	0	
東京都葛飾福祉工場	0	0	0	0	0	(0)	0	0	
合計	1	0	0	0	1	(0)	0	0	

社会福祉法人名 社会福祉法人 東京コロニー
 拠点名 合算

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

法人単位資金収支計算書
 （自）2023年 4月 1日 （至）2024年 3月31日

（単位：円）

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	4,937,354,000	4,729,735,792	207,618,208
		障害福祉サービス等事業収入	1,309,686,810	1,266,529,162	43,157,648
		その他の事業収入	188,906,596	173,611,557	15,295,039
		経常経費寄附金収入	8,786,000	9,358,785	-572,785
		受取利息配当金収入	1,009,750	1,063,524	-53,774
		その他の収入	48,477,045	34,369,850	14,107,195
		事業活動収入計(1)	6,494,220,201	6,214,668,670	279,551,531
	支出	人件費支出	964,972,319	924,379,144	40,593,175
		事業費支出	109,814,314	101,562,851	8,251,463
		事務費支出	249,863,740	200,013,798	49,849,942
		就労支援事業支出	4,929,224,426	4,568,115,677	361,108,749
		その他の支出	161,115,992	156,423,108	4,692,884
		利用者負担軽減額	9,117,297	8,439,117	678,180
		支払利息支出	6,865,000	6,390,929	474,071
その他の支出	7,044,517	6,648,269	396,248		
流動資産評価損等による資金減少額	740,771	740,771			
事業活動支出計(2)	6,438,758,376	5,972,713,664	466,044,712		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		55,461,825	241,955,006	-186,493,181	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	3,001,000	3,828,000	-827,000
		施設整備等寄附金収入		532,486	-532,486
		固定資産売却収入	1,090,911	1,667,515	-576,604
		その他の施設整備等による収入	124,000	979,400	-855,400
	施設整備等収入計(4)	4,215,911	7,007,401	-2,791,490	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	25,956,000	25,956,000	
		固定資産取得支出	713,953,080	688,293,682	25,659,398
		ファイナンス・リース債務の返済支出	5,033,440	1,658,580	3,374,860
		その他の施設整備等による支出	2,849,220	2,848,456	764
		施設整備等支出計(5)	747,791,740	718,756,718	29,035,022
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-743,575,829	-711,749,317	-31,826,512	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	722,295,278	633,531,158	88,764,120
		その他の活動による収入		525,470	-525,470
		その他の活動による収入計(7)	722,295,278	634,056,628	88,238,650
	支出	積立資産支出	96,561,796	90,561,034	6,000,762
		その他の活動による支出	1,172,756	1,022,756	150,000
		その他の活動支出計(8)	97,734,552	91,583,790	6,150,762
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		624,560,726	542,472,838	82,087,888	
予備費支出(10)		114,135,181	—	50,346,722	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-113,900,000	72,678,527	-186,578,527	
前期末支払資金残高(12)		2,687,224,621	2,687,224,621		
当期末支払資金残高(11)+(12)		2,573,324,621	2,759,903,148	-186,578,527	

(注) 予備費支出-63,788,459円は以下の通り充当使用した額である。

【事業活動支出】	
人件費支出	1,029,676円
事業費支出	689,314円
事務費支出	859,570円
就労支援事業費支出	30,407,426円
その他の支出	421,893円
利用者負担軽減額	186,297円
その他の支出	844,517円
流動資産評価損等による資金減少額	740,771円
【施設整備等支出】	
固定資産取得支出	484,000円
ファイナンス・リース債務の返済支出	509,440円
その他の施設整備等支出	490,220円
【その他活動支出】	
積立資産支出	27,102,579円
その他活動支出	22,756円
合計	63,788,459円

社会福祉法人名 社会福祉法人 東京コロニー
 拠点名 合算

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）

法人単位事業活動計算書

（自）2023年 4月 1日（至）2024年 3月31日

（単位：円）

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	4,729,735,792	4,335,640,932	394,094,860
		障害福祉サービス等事業収益	1,266,529,162	1,262,070,922	4,458,240
		その他の事業収益	173,611,557	215,174,432	-41,562,875
		経常経費寄附金収益	9,358,785	19,555,892	-10,197,107
		サービス活動収益計(1)	6,179,235,296	5,832,442,178	346,793,118
	費用	人件費	904,599,954	914,055,327	-9,455,373
		事業費	101,562,851	98,023,443	3,539,408
		事務費	201,196,539	190,892,317	10,304,222
		就労支援事業費用	4,685,634,783	4,363,201,719	322,433,064
		その他の費用	156,229,682	186,556,473	-30,326,791
		利用者負担軽減額	8,439,117	8,842,252	-403,135
		減価償却費	160,506,281	159,368,735	1,137,546
		国庫補助金等特別積立金取崩額	-119,998,263	-120,105,896	107,633
		徴収不能額	217,250	217,250	-217,250
サービス活動費用計(2)	6,098,170,944	5,801,051,620	297,119,324		
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		81,064,352	31,390,558	49,673,794	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	1,063,524	1,121,139	-57,615
		その他のサービス活動外収益	25,411,202	31,603,683	-6,192,481
		サービス活動外収益計(4)	26,474,726	32,724,822	-6,250,096
	費用	支払利息	6,390,929	6,095,189	295,740
		その他のサービス活動外費用	6,648,269	6,290,794	357,475
		サービス活動外費用計(5)	13,039,198	12,385,983	653,215
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		13,435,528	20,338,839	-6,903,311	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		94,499,880	51,729,397	42,770,483	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	3,828,000	857,352	2,970,648
		施設整備等寄附金収益	532,486	402,486	130,000
		固定資産売却益	1,667,508		1,667,508
		その他の特別収益	583,519	465,603	117,916
		特別収益計(8)	6,611,513	1,725,441	4,886,072
	費用	固定資産売却損・処分損	35,638	218,195	-182,557
		国庫補助金等特別積立金積立額	3,000,000	543,052	2,456,948
		その他の特別損失	150,278	1,839,903	-1,689,625
		特別費用計(9)	3,185,916	2,601,150	584,766
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	3,425,597	-875,709	4,301,306
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		97,925,477	50,853,688	47,071,789	
法人税、住民税及び事業税(12)					
法人税等調整額(13)					
当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)		97,925,477	50,853,688	47,071,789	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(15)		3,872,226,101	3,760,343,412	111,882,689
	当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)		3,970,151,578	3,811,197,100	158,954,478
	基本金取崩額(17)				
	その他の積立金取崩額(18)		629,332,850	104,529,001	524,803,849
	その他の積立金積立額(19)		63,500,000	43,500,000	20,000,000
	次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)		4,535,984,428	3,872,226,101	663,758,327

社会福祉法人 社会福祉法人 東京コーポ
拠点名 台算

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

法人単位貸借対照表
2024年 3月31日現在

	資 産 の 部		負 債 の 部		増 減	増 減
	当年度末	前年度末	当年度末	前年度末		
流動資産	4,852,843,323	4,338,708,777	流動負債	2,018,106,960	1,543,879,438	474,227,522
現金預金	2,796,328,075	2,867,431,563	短期運営資金借入金	400,000,000	300,000,000	100,000,000
事業未収金	1,610,308,767	1,034,725,264	事業未払金	1,209,858,056	911,077,257	298,780,799
未収金	63,237,151	9,738,560	その他の未払金	72,588,546	21,901,436	50,687,110
未収補助金	8,613,281	6,964,762	1年以内返済予定設備資金借入金	25,956,000	25,956,000	0
受取手形	21,240,103	39,862,273	1年以内返済予定リース債務	2,288,880	623,040	1,665,840
電子記録債権	51,282,225	51,533,837	1年以内支払予定長期未払金	2,036,913	2,781,258	-744,345
貯蔵品	2,902,595	3,068,263	未払費用	65,016,571	58,693,549	6,323,022
商品・製品	247,046,208	269,198,790	預り金	17,777,196	13,416,496	4,360,700
仕掛品	18,295,765	17,304,597	職員預り金	19,056,974	9,554,023	9,502,951
原材料	14,788,192	18,902,827	前受金	13,361,741	15,116,432	-1,754,691
立替金	7,000,316	7,330,934	賞与引当金	175,513,736	168,632,008	6,881,728
前払費用	13,522,942	14,270,764	未払税金等	14,652,347	16,127,939	-1,475,592
短期貸付金		740,771	固定負債	687,007,694	709,124,421	-22,116,727
徴収不能引当金△	1,722,297	2,364,428	設備資金借入金	289,022,000	314,978,000	-25,956,000
固定資産	5,096,996,948	5,202,831,538	長期運営資金借入金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産	3,636,106,481	3,093,101,510	リース債務	9,080,060	2,544,080	6,535,980
土地	812,128,671	812,128,671	退職給付引当金	353,392,464	355,427,698	-2,035,234
建物	4,336,415,151	3,659,254,752	役員退職慰労引当金	3,484,374	3,484,374	0
建物減価償却累計額△	1,512,437,341	1,378,281,913	長期未払金	2,028,796	2,690,269	-661,473
その他の固定資産	1,460,890,467	2,109,730,028	負債の部合計	2,705,114,654	2,253,003,859	452,110,795
土地	298,950,200	298,950,200	純資産の部			
建物	779,458,383	768,641,582	基本金	300,915,620	300,915,620	0
構築物	170,313,078	151,777,081	基本金	300,915,620	300,915,620	0
機械及び装置	797,660,476	756,100,476	国庫補助金等特別積立金	2,145,963,596	2,287,699,912	-141,736,316
車両運搬具	50,868,346	67,002,269	国庫補助金等特別積立金	2,145,963,596	2,287,699,912	-141,736,316
器具及び備品	382,695,172	352,535,468	その他の積立金	261,861,973	827,694,823	-565,832,850
建設仮勘定		103,819,000	その他の積立金	180,000,000	146,500,000	33,500,000
建物減価償却累計額△	507,662,719	485,407,672	移行時特別積立金	81,861,973	681,194,823	-599,332,850
構築物減価償却累計額△	89,062,876	80,767,062	次期繰越活動増減差額	4,535,984,428	3,872,226,101	663,758,327
機械及び装置減価償却累計額△	687,529,404	673,028,140	次期繰越活動増減差額	4,535,984,428	3,872,226,101	663,758,327
車両運搬具減価償却累計額△	49,677,196	64,409,923	(うち当期活動増減差額)	97,925,477	50,853,688	47,071,789
器具及び備品減価償却累計額△	283,752,850	248,824,697				
権利	16,500	16,500				
ソフトウェア	20,752,483	35,667,787				
退職給付引当資産	309,529,192	291,373,831				
その他の積立資産	260,861,973	827,694,823				
差入保証金	2,167,430	2,228,430				
長期前払費用	2,470,779	3,528,575				
その他の固定資産	3,446,840	3,468,840				
徴収不能引当金△	615,340	637,340				
資産の部合計	9,949,840,271	9,541,540,315	負債及び純資産の部合計	7,244,725,617	7,288,536,456	-43,810,839
			負債及び純資産の部合計	9,949,840,271	9,541,540,315	408,299,956

コロニーとうきょう Vol.177

社会福祉法人名 社会福祉法人 東京コロニー
拠点名 合算

別紙4

財 産 目 録
2024年 3月31日 現在

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
(単位:円)						
I 資産の部						
1 流動資産						
現金預金			運転資金等			2,796,328,075
事業未収金			就労支援事業及び障害福祉サービス事業			1,610,308,767
未収金			就労支援事業及び障害福祉サービス事業			63,237,151
未収補助金			都加算等			8,613,281
受取手形			就労支援事業			21,240,103
電子記録債権			就労支援事業			51,282,225
貯蔵品			【控除対象】切手等			2,838,327
			【控除非対象】公益事業			64,268
			小計			2,902,595
商品・製品			社会福祉事業による物品販売業及び印刷業等			247,046,208
仕掛品			【控除対象】社会福祉事業による印刷業等			18,295,765
原材料			社会福祉事業による印刷業等			14,788,192
立替金			郵便、発送代金等			7,000,316
前払費用			保険料等			13,522,942
徴収不能引当金△			社会福祉事業に係る得意先等			1,722,297
			流動資産合計			4,852,843,323
2 固定資産						
(1) 基本財産						
土地	(福祉事業本部) 東久留米市氷川台2-31-22 (コロニー中野) 中野区江原町2-6-7 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9 (青葉ワークセンター) 東村山市青葉町2-39-10		社会福祉事業であるグループホームに使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している			110,701,020 147,823,591 398,000,000 155,604,060
			小計			812,128,671
建物	(福祉事業本部) 東久留米市氷川台2-31-22 (コロニー中野) 中野区江原町2-6-7 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-24-8 (青葉ワークセンター) 東村山市青葉町2-39-10 (もみじやま支援センター) 中野区中野5-3-32 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区金町2-8-20 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区金町2-9-5 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区立石3-10-18 (東京都大田福祉工場) 大田区大森西2-22-26 (東京都大田福祉工場) 大田区大森西2-22-26	2002 2017 1974 1983 2002 1989 2017 2017 2023 2019 2021	社会福祉事業であるグループホームに使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している	66,059,195 481,286,351 133,107,474 91,300,000 192,950,780 616,488,760 652,723,007 403,930,843 311,428,351 677,160,399 632,216,009 77,763,982	38,469,884 125,143,110 133,107,473 83,995,999 100,334,387 468,533,711 197,131,392 115,425,797 99,558,405 2,089,334 140,556,907 8,090,942	27,589,311 356,143,241 1 7,304,001 92,616,393 147,955,049 455,991,615 288,505,946 211,869,946 675,071,065 491,659,102 69,673,040
			小計			2,823,977,810
			基本財産合計			3,636,106,481
(2) その他の固定資産						
土地	埼玉県八潮市2-1031-1		社会福祉事業である就労支援事業に使用している			298,950,200
建物	(福祉事業本部) 東久留米市氷川台2-31-22他 (コロニー中野) 中野区江原町2-6-7 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9他 (青葉ワークセンター) 東村山市青葉町2-39-10他 (もみじやま支援センター) 中野区中野5-3-32 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区金町2-8-20他 (東京都大田福祉工場) 大田区大森西2-22-26他 (トコロ情報処理センター・事業部) (トコロ情報処理センターデジタルメディアセンター		【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除非対象】公益事業に使用している建物付属設備 【控除非対象】公益事業に使用している建物付属設備	138,118,079 23,306,802 244,396,788 35,140,054 65,826,626 251,828,067 9,748,364 8,071,703 3,021,900	65,515,635 6,466,631 228,658,754 21,418,934 17,100,324 163,636,141 1,319,442 909,756 2,637,102	72,602,444 16,840,171 15,738,034 13,721,120 48,726,302 88,191,926 8,428,922 7,161,947 284,798
			小計			271,795,664
構築物			社会福祉事業に使用するアスファルト舗装他	170,313,078	89,062,876	81,250,202
機械及び装置			社会福祉事業に使用する印刷機械等	797,660,476	687,529,404	110,131,072
車輛運搬具			【控除対象】社会福祉事業に使用するリフトバス等	50,868,346	49,677,196	1,191,150
器具及び備品			【控除対象】社会福祉事業に使用する作業機械等	372,601,192	275,241,191	97,360,001
			【控除非対象】公益事業に使用	10,093,980	8,511,659	1,582,321
			小計			98,942,322
権利			社会福祉事業に使用する電話加入権等			16,500
ソフトウェア			【控除対象】社会福祉事業に使用する販売システム等			20,752,483
退職給付引当資産			退職給付引当金			309,529,192
その他の積立資産			社会福祉事業に使用する修繕費及び施設整備等			260,861,973
差入保証金			共同生活援助等			2,167,430
長期前払費用			火災保険料、キャリアソフトライセンス費、ソフトリフ使用料、等			2,470,779
その他の固定資産			【控除対象】社会福祉事業に使用する敷金等			3,443,840
			【控除非対象】公益事業			3,000
			小計			3,446,840
徴収不能引当金△			社会福祉事業に係る得意先等			615,340
			その他の固定資産合計			1,460,890,467
			固定資産合計			5,096,996,948
			資産合計			9,949,840,271
II 負債の部						
1 流動負債						
短期運営資金借入金	みずほ銀行他					400,000,000
事業未払金	就労支援事業他					1,209,858,056
その他の未払金	就労支援事業他					72,588,546
1年以内返済予定設備資金借入金						25,956,000
1年以内返済予定リース債務	青葉					2,288,880
1年以内支払予定長期未払金	割賦代金他					2,036,913
未払費用	人件費他					65,016,571
預り金	就労支援事業他					17,777,196
職員預り金	社会保険料他					19,056,974
前受金	就労支援事業他					13,361,741
賞与引当金						175,513,736
未払税金等	消費税					14,652,347
			流動負債合計			2,018,106,960
2 固定負債						
設備資金借入金	三菱UFJ銀行、三井住友銀行					289,022,000
長期運営資金借入金	福祉医療機構					30,000,000
リース債務	青葉					9,080,060
退職給付引当金						353,392,464
役員退職慰労引当金						3,484,374
長期未払金	障害福祉サービス等					2,028,796
			固定負債合計			687,007,694
			負債合計			2,705,114,654
			差引純資産			7,244,725,617

アートビリティ Artbility ギャラリー 52



『いか』

木村 遊夢 (きむら ゆうむ) さん

アートビリティでは2か月に一度、全国から集まる作品を審査する「定例審査会」を開催しています。アートビリティ登録作家はもちろん、それ以外の方も応募ができるのですが、コンスタントに作品を応募する人もいる一方、数年に一度1作品を制作する方、集中的に制作する方もいるため、応募頻度や作品数は本当に人それぞれです。

なかでも、審査会の毎に50点以上もの作品を送ってくる強者がいます。

今回の掲載作品「いか」を手掛けた、木村遊夢さんです。

多いときには1日に10作品以上も描くという木村さん。作品のインスピレーションは、飼っている猫などの日常のちょっとした出来事。突然湧くアイデアと創作意欲を逃がさないように、机の上には色付きの墨「彩煙墨(さいえんぼく)」を並べていて、すぐに描ける体制にしているのだそうです。

表紙の「いか」は、全長80センチもの大きなイカが釣れたことが楽しくて描いたとのこと。感性豊かな木村さんが描くとイカもこんなにカラフルで愛嬌たっぷりに表現されます。

描くときに大切にしていることは「遊ぶ気持ちで、楽しく描くことです」と話す木村さん。たとえ嫌なことがあっても、作品と向き合ううちに楽しくなって忘れられるのだそうです。絵を描くのが楽しいという気持ちは、線の太さや色遣い、モチーフの表情などから見ている側にも伝わってきます。

日々、過ごしていると見落としてしまう気付きや発見。

子どものころ、嬉しい、楽しい、きれいなど日常の些細なものへの感動を誰もが持っていたはず。はてさて、私たちは年齢を重ねるにつれて一体いくつ見落としてきたのでしょうか。アートには見落としてしまった感動を再発見させてくれる力があるような気がします。

.....

【作家プロフィール】

1960年生まれ。広島県在住。
 絵手紙教室の講師を1年間依頼され、その影響で書から絵をそえて描くようになった。
 2013年 「第13回 ひな祭り絵手紙」大賞受賞。
 「第28回書のアート展」特選2作品受賞。
 2018年 「第35回記念産経国際書展」現代書2 特選受賞。
 「第6回新潟美展(第70回広島県美術展)」書系 前衛 入選。
 2019年 アートビリティ登録作家となる。
 2023年 「2023 パラアートTOKYO 第10回国際交流展」入選。

■アートビリティ…障害者の所得支援を続けてきた社会福祉法人東京コロニーが、アートの分野で力を発揮する人材を後押しし、その才能を収入に結び付けるために始めた事業です。約200名の作家による6,400点以上の作品が揃ったアートライブラリーとなり、年間約400点の作品が使用されています。

ご寄附のお礼

(2024年1月～2024年5月 総額 1,120千円)

下記の皆様より、当法人に対してご寄附を賜りました。ご支援に対しまして心より感謝申し上げます。

2024年 4月 全国本田労働組合連合会 様 ほか

◎文中の写真はご本人の了解を得て掲載しています。

<p>ご協力の お願い</p>	<p>社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方の就労や教育、生活を支援するために数多くの事業を行っています。私どもの事業を応援して下さる方(あるいは団体)からのご協力を下記を窓口にて常時受け付けております。いただきましたご寄附は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。(社会福祉法人への寄附は、税金が一部免除になります。)</p>
<p>ご寄附受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局 tel:03-3952-6166 fax:03-3952-6664 https://www.tocolo.or.jp/contact/</p>	

東京コロニーのホームページ



東京コロニー メインページ
<https://www.tocolo.or.jp/>



コロニー東村山ブログ
<https://www.colony.gr.jp/colonyhigashimurayama/>



コロニー東村山
<https://www.colony.gr.jp/>



デジタルメディアセンター
<https://www.tocolo.or.jp/dmc/>



アートビリティ
<https://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<https://www.ootafukushikojo.org/>



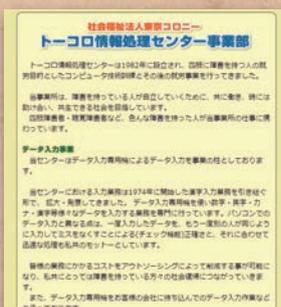
トーコロ情報処理センター職能開発室
<https://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



トーコロ青葉ワークセンター
<https://www.colony.gr.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<https://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<https://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター
<https://www.tocolo.or.jp/seikatu/index.html>



グループホーム
<https://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>



中野区仲町就労支援事業所
<https://colony.gr.jp/nakayoshienn/>



コロニーもみじやま支援センター
<https://colony.gr.jp/momijiyama/>



コロニー中野
<https://colony.gr.jp/colonymakano/>